

総務省多文化共生地域会議

能登半島地震での外国人支援の実践から 見えてきた課題



一般社団法人多文化人材活躍支援センター
代表理事 山路健造



山路健造（多文化人材活躍支援センター代表理事）



多文化共生マネージャー
多文化社会コーディネーター

立命館アジア太平洋大学卒業

西日本新聞社で7年間、記者職として九州の国際交流、国際協力、多文化共生の現場などを取材。

新聞社を退職し、JICA青年海外協力隊でフィリピンへ派遣。自らも海外で「外国人」を経験。

帰国後、認定NPO法人地球市民の会入職。

2018年1月にサワディー佐賀を立ち上げ、代表に。

ウクライナ避難民支援の官民連携組織「SAGA Ukeire Network」事務局も担当。

現在は、一般社団法人多文化人材活躍支援センター代表理事を務めるほか、2024年2月より能登半島地震支援に携わり、9月より輪島市社会福祉協議会生活支援相談員も兼務。

令和7年度から石川県国際化推進委員。



“外国人”だったからこそ＝多文化共生

- ・2年間のホームステイ
- ・大分県人会への参加
- ・立命館校友会へ参加



日本に住む外国人も
同じように楽しく過ごせる
環境をつukれないか？



元記者＝常にホットイシューの解決を

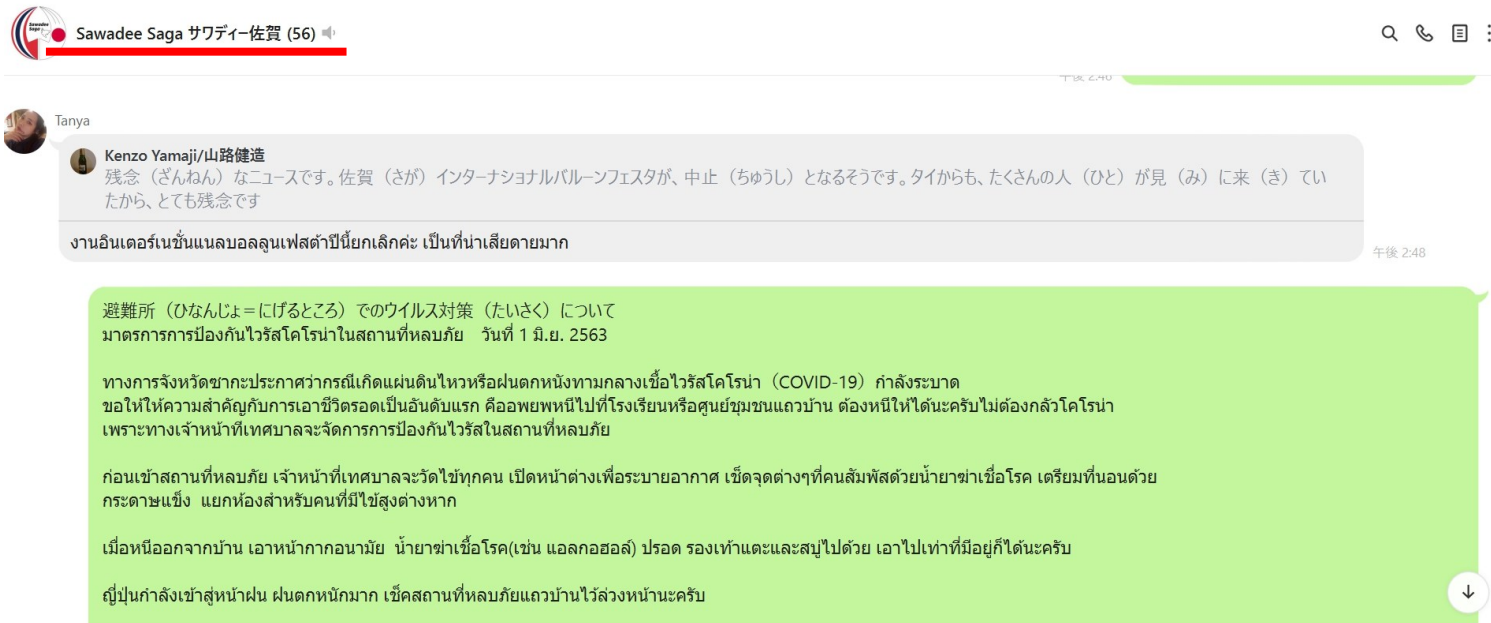
サワディー佐賀＝タイやタイが好きな人の コミュニティ

- 佐賀県がタイ映画・ドラマのロケ地誘致
- タイ人たちが仲良くなり、困ったことがあればお互いで助け合うための団体（2018年1月スタート）
- タイ料理教室、タイ語教室を開催
- タイフェスティバルへの協力
- ホストタウンのおもてなし
- 祐徳稲荷神社での通訳ボランティア
- 災害時（コロナ情報）のタイ語発信



サワディー佐賀翻訳チーム

2019年に佐賀豪雨が発生→
自動翻訳で発信したが、不正確→
行政の情報をタイ語に翻訳し、
ネイティブがダブルチェックして発信



ふるさとづくり大賞受賞

2021/2/4

夕刊

夕刊 2021/02/04(木)

サワディー佐賀 総務大臣表彰



「ふるさとづくり大賞」で総務大臣表彰を受賞したサワディー佐賀の山路健造代表

タイ語で災害情報やコロナ対策

「外国人も暮らしやすい街に」



タイ人の交流や文化発信を目的にサワディー佐賀が開設したタイ料理の教室（2018年撮影）

タイ人、タイが好きで、たまたま佐賀市に在住するタイ人のコミュニティ「サワディー佐賀」が、活動の中心として取り組んできた「ふるさとづくり大賞」で総務大臣表彰を受賞した。サワディー佐賀は、タイ人の交流や文化発信を目的に、タイ料理の教室や、タイ語の講座など、外国人にやさしい街づくりを推進している。佐賀市は、外国人の増加に伴い、外国人にやさしい街づくりを推進している。サワディー佐賀は、タイ人の交流や文化発信を目的に、タイ料理の教室や、タイ語の講座など、外国人にやさしい街づくりを推進している。佐賀市は、外国人の増加に伴い、外国人にやさしい街づくりを推進している。

©The Nishinippon Shimbun

2021/2/4 西日本新聞夕刊

「ふるさとづくり」総務大臣表彰

サワディー佐賀 知事に受賞報告

県内

佐賀県在住のタイ人らでつくる交流団体「サワディー佐賀」(山路健造代表)が9日、佐賀県の山口祥義知事を訪問し、山路代表らが総務省の「ふるさとづくり大賞」の受賞を報告した。

サワディー佐賀は2018年1月に発足。災害時にタイ語で情報発信をする取り組みや、祐徳稲荷神社で観光客向けのタイ語通訳のボランティアなどの活動が続けている。こうした活動が評価され、2020年度の「ふるさとづくり大賞」で総務大臣表彰(団体表彰)を受賞した。

団体のメンバーは約60人。新型コロナ禍の昨年5月には、国の「特別



サワディー佐賀の取り組みなどについて話す山路健造代表(右)＝佐賀県庁

定額給付金」の申請フォーマットにタイ語訳を付ける活動にも取り組んでいる。山路代表は「まさか賞をもらうとは思ってなかった。今後は、ワクチン接種に関するタイ語の情報を発信していきたい」と話した。山口知事は「なくてはならない存在」と評価し、受賞を喜んだ。(岩本大志)

2021/2/16 佐賀新聞朝刊



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

ウクライナひまわりプロジェクト

佐賀県、市町、CSOで、^{サガ}^{ウケイレ}^{ネットワーク}
SAGA Ukeire Networkを立ち上げ。
全国初 官民連携でウクライナ避難民をワンストップで支援。

佐賀だからこそできる支援

佐賀県では、これまでも、**県とCSO**が協力しいろいろな課題を解決

SAGA Ukeire Network

県・市町

信頼性・公平性のもとでのネットワーク
構築やプロジェクト推進などの
コーディネート

県で全体調整



CSO

国内外での被災者・難民支援の経験

佐賀子育て応援団ココロ 難民を助ける会 Civic Force
テラ・ルネッサンス 地球市民の会 佐賀未来創造基金
佐賀県国際交流協会 かけはし



ワンチームできめ細やかな支援を実現

SAGA Ukeire Network ～ウクライナひまわりプロジェクト～

佐賀県

- ・ 「県ウクライナ支援相談窓口（通訳・生活のサポート等）」
- ・ 国、市町、関係機関等との総合調整
- ・ 生活支援物資の手配
- ・ 義援金の手配
- ・ 仮住居の手配

窓口：
国際課

佐賀県

CSO

- ・ 相談・通訳、生活のサポート
- ・ 日本語教育物資支援
- ・ 食糧支援
- ・ 就労支援
- ・ 難民への理解講座
- ・ 日本人への理解講座
- ・ 来日後の生活ガイダンス
- ・ 子どもの預かり
- ・ 雇用支援
- ・ 航路代補助

窓口：
佐賀NGOネットワーク
（事務局・地球市民の会）

CSO

佐賀市

佐賀市

- ・ 受入窓口の設置
- ・ 住居
- ・ 福祉サービス
- ・ 生活に必要な道具の提供
- ・ 学校教育
- ・ 保育所
- ・ 医療

窓口：
国際課



一般社団法人 多文化人材活躍支援センター 誰もが活躍して輝ける社会に



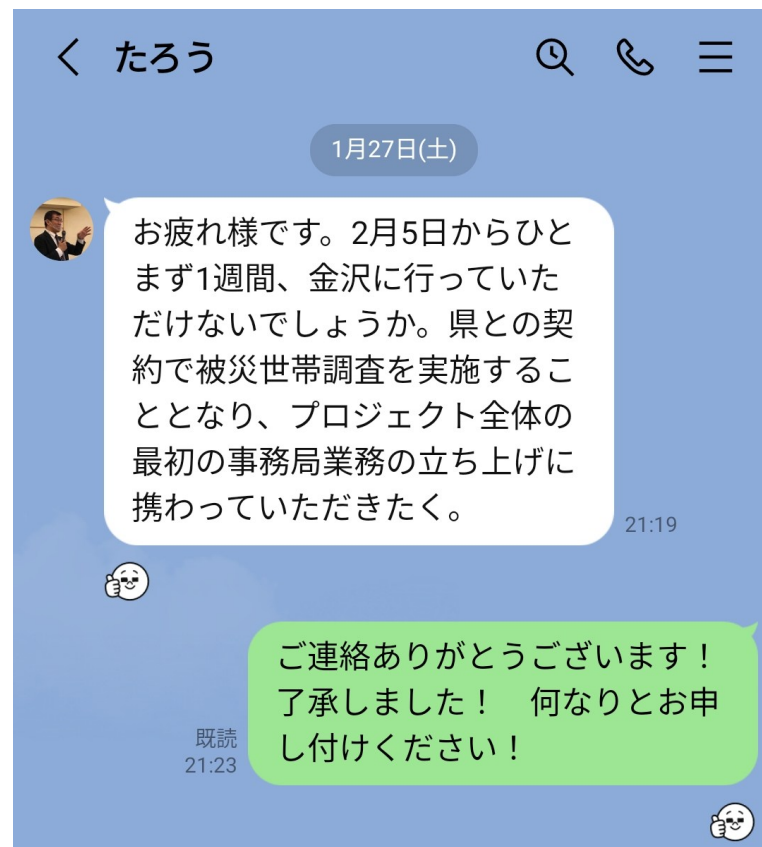
ウクライナ避難民の
アンナさんが理事

2か国以上の文化背景を持つ「多文化人材」がその経験や能力、知識、ネットワークを生かし、誰もが生まれた国や在留資格に関係なく活躍でき、平和で幸せに暮らせる社会に貢献することを目的とする。

ウクライナと日本、タイと日本、ミャンマーと日本・・・など、2つ以上の文化や言葉を知っていることを「強み」に、その活躍の場をつくる。



私と能登支援



「まずは1週間金沢」→輪島へ移住。笑

田村太郎氏 (ダイバーシティ研究所代表)



阪神大震災直後に外国人被災者へ情報を提供する「外国人地震情報センター」の設立に参加。
95年10月、同センターの「多文化共生センター」への改組に伴い事務局長に就任。1996年から1997年4月から2004年3月まで代表として同センターの成長に居合わせた。
2011年3月東日本大震災を受けて内閣官房に発足した「震災ボランティア連携室」で企画官に就任。被災地のニーズ把握や震災ボランティア促進のための施策立案に携わった。2012年2月の復興庁設立に伴い「上席政策調査官」、14年4月からは「復興推進参与」として官民連携や住民参加型の復興まちづくりの推進にも取り組んでいる。

多文化共生・ダイバーシティの第一人者



在宅避難者の調査・見守り活動

被災高齢者等把握事業（厚労省予算）

- ・全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOD）の一員として、ダイバーシティ研究所が受託
- ・調査対象 輪島市内の全世帯（10,887世帯、2024/4/1現在）
- ・調査期間 2024年4月1日～6月30日
- ・調査人員 調査員のべ 1,327人
- ・調査方法
 - ①被災世帯を直接訪問し半構造式面接方式で調査（訪問アセスメント）
 - ②調査対象者本人がPCやスマホ等から直接入力（セルフアセスメント）
- ・有効回答数 **3,096件**
（①訪問アセス：3,039件 ②セルフアセス：57件）
- ・訪問数 **12,253件（重複、空き家含む）**



在宅避難者の調査・見守り活動

輪島市ささえあいの風センター

仮設入居者を青年海外協力協会（JOCA）、

在宅避難者を輪島市社会福祉協議会が担当。

被災者の様々な生活上の問題について相談に応じ、解決を図り、生活の安定に向けた支援、被災者の孤独化防止や心のケアを行うとともに、住民同士のつながりを再構築し、自立的な見守り体制の構築を図るため、自治会活動への支援や交流活動の支援等、地域コミュニティの形成・強化に向けた必要な支援を行うことを目的とする。



輪島市災害たすけあいセンター 見守り・相談支援班

輪島市
約11,000世帯

—

仮設
約3000世帯

—

広域避難
約2500世帯

＝ 5500世帯



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

輪島市へ移住を決めた理由

- 厚労省の「被災高齢者等把握事業」で、輪島市の約11,000世帯すべてを全戸訪問。そのデータをきちんと生かすような復興支援活動ができないか？
- 国際課、国際交流協会がない輪島市、奥能登地域で外国人住民支援ができないか？ NPOだからこそ公平性や市域に限らず活動できるのでは？

輪島市の外国人が置かれた状況

解決すべき課題

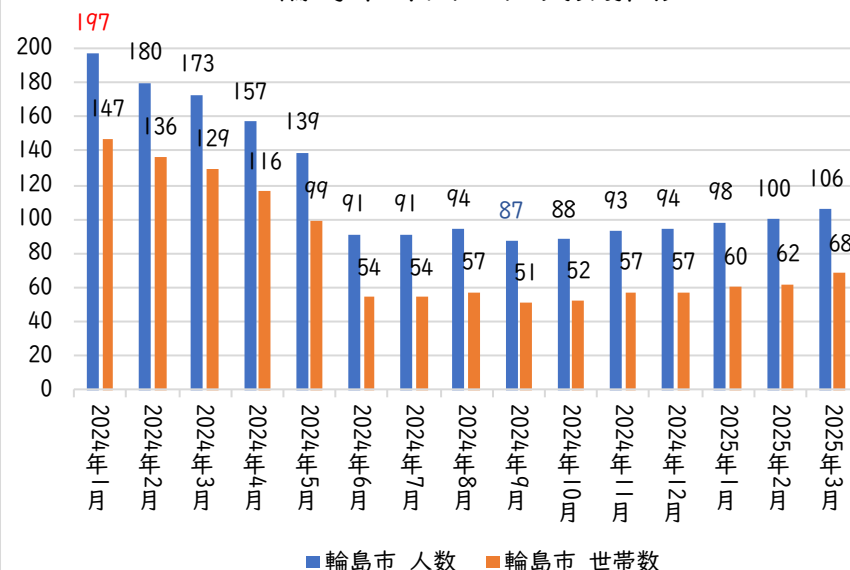
・見えてこない外国人住民の被害実態
代表理事が被災高齢者等把握事業に携わり、輪島市内の約11,000世帯の全戸調査を担当してきたが、外国人住民に会えた事例は数えるほどしかなく、被害の実態が見えない。行政の国際課も国際交流協会もない。

行政の国際課も国際交流協会もない。

・輪島から離れる外国人住民
1月現在197人147世帯の外国人住民が居住していたが、4月には157人116人、5月には139人99世帯と減り、9月には87人51世帯まで半減した。母国で地震を経験したことのない外国人住民も多いが、10月以降はまた技能実習生の受け入れが続く

・復興の担い手としての外国人材
人口減社会を背景として外国人材の受け入れが進み、各地で外国人住民数が増加する中、外国人材は能登の復興の担い手となり得る。

輪島市外国人住民数推移



日本航空学園のキャンパス移転による留学生減、技能実習先の変更による技能実習生の減少も、また微増傾向。



ほくりくみらい基金と外国人調査レポートを作成



各セクターへのヒアリング

- 外国人住民当事者
- 外国人材の受け入れ企業と技能実習生
- 能登・石川県内の支援者たち
- 石川県外からの支援者
- 行政



ヒアリングをもとにした提言

- 顔の見える関係性の重要性
- インフラ整備の必要性
- 育成就労制度への移行でさらなる外国人増が見込まれる
- インフラ整備に向けた戦略の必要性

<https://x.gd/Behlg>



支援の現場で感じた能登半島地震における 多文化防災の課題

- 石川県

災害時多言語支援センターを立ち上げるも、奥能登市町からのアクセスなし。県職員、県協会職員が能登に入れず。日頃からHPにアクセスする習慣なし。

- 奥能登市町

国際交流担当が避難所対応で外国人に特化した支援できず。

- 民間団体、地域日本語教室

日本語教室先生も被災。外国人に特化した団体ももともと少ない。

**平時から、外国人住民と地域住民が
顔の見える関係性を築いておく必要性**



多文化人材を絡めた復興支援

多文化人材
活躍の場

ウクライナ避難民や
近隣県の外国人による
炊き出し



外国人住民の
活躍・居場所

輪島市内の
外国人住民による
炊き出し



9月に発生した
水害による
緊急物資支援、
安否確認

緊急支援

外国人住民に対する
アンケート調査

被災状況把握

Supported by

THE NIPPON
FOUNDATION

YAHOO! 基金
JAPAN



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

アウトリーチによる物資支援と 水害も含めた実態把握へ変更

雨が落ち着いた9/22より情報収集を開始したところ、一時孤立した鵜巣地区で「仮設に入居する技能実習生たちが物資をもらえていないのではないか」との情報を得て、水やカップ麺、レトルト食品などを持って持参すると「自転車で買い物に行けなかった」と喜ばれた。また、日本人配偶者から「電気がないのでライトがほしい」というSOSもあった。物資支援の必要性を感じ、住基を基にしたアウトリーチによる物資支援と、水害も加えたアンケート収拾の2軸へと方向転換をした。



アウトリーチによる安否確認 (9/30～10/1)

広島と神奈川のボランティアの協力を得て、住基情報を基に戸別訪問をして安否確認を実施。浸水エリアと想定していなかった地域に住む日本人配偶者のお宅に床上50センチ浸水した家を把握。すぐにボランティアセンターにつなぎ、土嚢を積んで家への川水の流入を防いだ。また、床上180センチし、「地震以降眠れていない。夜中4時くらいまで起きている」と話す日本人配偶者も把握した。



輪島市外国人住民支援展開案

実態把握



ニーズ調査

ニーズを把握して
支援メニューを決定

居場所
づくり

日本語
教育

支援情報
相談会

防災情報
ガイドブック
作成



輪島市に外国人が戻り、さらなる受け入れに向けたインフラの整備



一般社団法人多文化人材活躍支援センター

アセスメント設計

- 防災士の資格を持つ専門家に監修を依頼。
- 設問を絞る（外国人住民の離脱率を下げるため）
- 外国人住民の多い国籍を確認し、アンケート項目の翻訳をネイティブに依頼（NGOダイバーシティとやま）
- 輪島市福祉課のリクエスト
→地震の時にどう情報を得たか。誰がサポートしてくれたのか。避難、物資の情報をどうゲットできたか（できなかったも含めて）
- 使うSNSなども確認。グループなどをつくり、今後の情報の拡散。

アセスメント設計

- 名前 住所（地区名選択？ 記入してもらう？）
- 出身国 在留資格
- 地震の後に困っていることは？（家、仕事、医療、支援、言葉、ボランティアのニーズ）
- 地震の時に情報を得ることはできたか。サポートしてくれる人はいたか。得られなかった場合の理由。
- 今一番困っていることは何か（仕事、お金、情報、相談相手、交流、日本語など）
- 使っているSNS（LINE、Messenger、Telegram、Wechat）＝今後の情報発信、SNSグループ化へ



アンケートの概要

- 翻訳言語: やさしい日本語、英語、タガログ語、ベトナム語、中国語、タイ語(1月1日現在の国籍別人数を基に設定) 設問数: 個人情報、普段の生活、地震後の状況、水害の状況を基に、計30問を準備。
- 名前、住所、連絡先については、任意の回答とした。
- 有効回答数: 42件(回答率39%)

輪島市の外国人のためのアンケート

このアンケートは、輪島市で2024年1月に起きた地震後の外国人の生活を把握することを目的に、

日本で暮らす外国人住民の支援を行う「一般社団法人多文化人材活躍支援センター」が実施するものです。

お答えいただいた回答は、輪島市に住む外国人が必要とする支援のために活用します。

■調査実施主体

調査主体：多文化人材活躍支援センター 協力：輪島市福祉課、輪島市社会福祉協議会

■お問い合わせ先

本アンケートに関するご質問は、以下の連絡先までご連絡ください。

多文化人材活躍支援センター 山路

office@tabusapo.org / 080-8832-4576 / LINE ID: kenzoya3

はじめに、あなたのことを教えてください。

Q1. あなたは、何歳ですか。

□

Q2. あなたの性別を教えてください。(○はひとつ)

1. 男	2. 女	3. 答えたくない
------	------	-----------

Q3. あなたは妻や、夫、パートナーがいますか。(○はひとつ)

1. いる : あなたと同じ国の入	2. いる : 日本の入	3. いる : 他国の入
4. いない : いたことがない	5. いない : 離婚した、死んだ	6. 答えたくない

Q4. 生まれた国や地域を教えてください。

Q5. あなたの在留資格を教えてください。(○はひとつ)

1. 技能実習	2. 留学	3. 特定技能	4. 技術・人文・国際業務
5. 家族滞在	6. 永住者	7. 日本人と結婚	8. 永住者と結婚
9. 定住者	10. わからない	11. 答えたくない	12. その他 ()

Q6. あなたは日本に何年住んでいますか。また、輪島市に何年住んでいますか。

(1) 日本に住んでいる年数

1. 1年より少ない	2. 1～3年	3. 3～5年	4. 5～10年
5. 11～20年	6. 20年より多い	7. 答えたくない	

(2) 輪島市に住んでいる年数

1. 1年より少ない	2. 1～3年	3. 3～5年	4. 5～10年
5. 11～20年	6. 20年より多い	7. 答えたくない	



Q7. あなたと一緒に住んでいる人の数を教えてください。あなたも人数に入れてください。

Q8. 誰と一緒に住んでいますか。(○はいくつでも)

1. 夫・妻・パートナー	2. 自分の子ども	3. 自分の親	4. 夫・妻・パートナーの親
5. 兄・弟・姉・妹	6. そのほかの家族	7. 友達	8. 会社と一緒に働く人
9. 一人で住んでいる	10. 答えたくない	11. その他 ()	

Q9. あなたはどこに住んでいますか。(○はひとつ)

1. 自分の家	2. 会社の寮	3. 仮設住宅 (家が壊れた人が住む家)
4. みなし仮設(家が壊れた人が住むアパート)	5. 避難所(地域の学校やコミュニティセンターなど、逃げる場所)	6. 家族や親戚の家
7. 友達の家	8. ホテル・旅館	9. 答えたくない
10. その他 ()		

Q10. あなたは今、働いていますか。(○はひとつ)

1. 働いている	2. 地震の前から働いていない (仕事を休んでいる人も入ります)	3. 地震の後から働いていない (仕事を休んでいる人も入ります)
4. 答えたくない	5. その他 ()	

Q11. 【働いている人へ】どこで働いていますか。(○はひとつ)

1. 漁業	2. 農業・林業	3. レストラン・ お店	4. 観光・ホテルなど
5. 介護・福祉・病院	6. 食べ物や商品を 作るメーカー	7. 建設業	8. 事務・オフィスワーク
9. 学校の先生	10. 公務員	11. 答えたくない	12. その他 ()

Q12. あなたは、日本語でどのくらい会話ができますか。(○はひとつ)

1. ほとんどできない	2. 簡単な日本語ができる (N5くらい)
3. 日常会話がゆっくり話せる (N4くらい)	4. 日常会話が話せる (N3くらい)
5. 新聞やニュースがわかる (N2くらい)	6. ビジネスレベルで話せる (N1くらい)
7. 答えたくない	8. その他 ()

Q13. 友達、家族、職場の人と、どうやって連絡をしますか。(○はいくつでも)

1. Facebook Messenger	2. LINE	3. Wechat	4. Instagram
5. Telegram	6. WhatsApp	7. Kakao Talk	8. 電話
9. 使っていない	10. 答えたくない	11. その他 ()	



Q14. あなたは、どんな情報がほしいですか。(〇はいくつでも)

1. 家についての情報	2. 仕事についての情報
3. 子育てや子どもの学校についての情報	4. 病院や福祉の情報
5. 生活についての情報、ゴミの出し方など	6. 交通や移動についての情報、バスのルートや時間など
7. 日本語の勉強についての情報	8. 地震や大雨が来た時の情報
9. 自分の国の料理の材料を貰える場所	10. イベントについての情報
11. 外国人が集まる場所やイベント	12. あなたの国の言葉で相談できる場所
13. 特にない	14. 答えたくない
15. その他 ()	

Q15. あなたが輪島市で生活するための情報は、どうやって調べていますか。(〇はいくつでも)

1. テレビ・新聞・ラジオ	2. 市役所や行政、担当する部署からの連絡やチラシ、広報紙
3. 管理団体・登録支援機関	4. 職場
5. 学校	6. 同じ国から来た友達
7. 日本人の友達	8. 外国人の友達
9. 近くに住む日本人	10. 日本にいる家族・親族
11. あなたの国にいる家族・親族	12. 日本語のインターネット・SNS
13. あなたの国の言葉のインターネット・SNS	14. 地域の国際交流団体
15. 地域の日本語教室	16. 大使館・領事館

17. 特にない	18. 答えたくない
19. その他 ()	

Q16. あなたが困ったり、心配したりしたときに、誰に相談しますか。(〇はいくつでも)

1. 日本にいる家族・親族	2. あなたの国にいる家族・親族
3. 同じ国から来た友達	4. 日本人の友達
5. 外国人の友達	6. 近くに住む日本人
7. 職場・学校の人	8. 管理団体・登録支援機関
9. 市役所・行政	10. インターネット・SNS
11. 地域の国際交流団体	12. 地域の日本語教室
13. 大使館・領事館	14. 地域の国際交流団体
15. 地域の日本語教室	16. 相談できる人がいない
17. 答えたくない	18. その他 ()

2024年1月1日の地震が起きたときのことについて聞きます。

Q17. 地震の時、あなたは逃げましたか。(〇はひとつ)

1. 逃げた (車で寝た人も入れます)	2. 逃げなかった・そのまま家にいた
3. 2024/1/1は石川県にいなかった (日本にいなかった人も入れます)	4. 答えたくない
5. その他 ()	

Q18. 【逃げた人へ】どこに、誰と逃げましたか。詳しく書いてください。



--

Q19. 1/1に、地震のことや、逃げる場所のことなどの情報をどうやって調べましたか。(○はいくつでも)

1. テレビ・ラジオ	2. 防災無線
3. ニュースアプリ・防災アプリ	4. 市役所や行政からの連絡
5. 管理団体・登録支援機関からの連絡	6. 職場からの連絡
7. 学校からの連絡	8. 同じ国から来た友達
9. 日本人の友達	10. 外国人の友達
11. 近くに住む日本人	12. 家族・親族
13. 日本語のインターネット・SNS	14. あなたの国の言葉のインターネット・SNS
15. 地域の国際交流団体	16. 地域の日本語教室
17. 大使館・領事館	18. 特にない
19. 答えたくない	20. その他()

Q20. 地震がおきてすぐ(1/1～3)に、困ったことは何でしたか。(○はいくつでも)

1. 地震が起きたとき、命を守るために、何をすればよいか、わからなかった	2. どこに逃げたらよいかわからなかった
3. 道や家やビルが壊れていて、逃げられなかった	4. 何が起きているかわからなかった・パニックになった
5. 災害・地震についての日本語がわからなかった	6. 電気・ガス・水道が使えなかった
7. 水・食べものがなかった	8. トイレに行けなかった

9. 怖かった	10. 家族や友達と連絡ができなかった
11. ほしい情報がもらえなかった	12. 地震のことを考えて眠れない・夜に起きる
13. 特にない	14. 答えたくない
15. その他()	

2024年9月にたくさん雨が降ったときのことについて聞きます。

Q21. 大雨の時、あなたは逃げましたか。(○はひとつ)

1. 逃げた (車で乗った人も入れます)	2. 逃げなかった・そのまま家にいた
3. 2024/9/21ごろは石川県にいなかった (日本にいなかった人も入れます)	4. 答えたくない
5. その他()	

Q22. 【逃げた人へ】どこに、誰と逃げましたか。詳しく書いてください。

--

Q23. 大雨のことや、逃げる場所のことなどの情報をどうやって調べましたか。(○はいくつでも)

1. テレビ・ラジオ	2. 防災無線
3. ニュースアプリ・防災アプリ	4. 市役所や行政からの連絡
5. 管理団体・登録支援機関からの連絡	6. 職場からの連絡
7. 学校からの連絡	8. 同じ国から来た友達
9. 日本人の友達	10. 外国人の友達
11. 近くに住む日本人	12. 家族・親族



13. 日本語のインターネット・SNS	14. あなたの国の言葉のインターネット・SNS
15. 地域の国際交流団体	16. 地域の日本語教室
17. 大使館・領事館	18. 特になし
19. 答えたくない	20. その他（ ）

Q24. 大雨がおきてすぐ（9/21～23ごろ）に、困ったことは何でしたか。（〇はいくつでも）

1. 大雨が降っているとき、命を守るために、 何をすればよいか、わからなかった	2. どこに逃げたらよいかわからなかった
3. 道や家やビルが壊れていたり、 水浸しになっていて、逃げられなかった	4. 何が起きているかわからなかった・ パニックになった
5. 災害・大雨についての日本語がわからなかった	6. 電気・ガス・水道が使えなかった
7. 水・食べものがなかった	8. トイレに行けなかった
9. 怖かった	10. 家族や友達と連絡ができなかった
11. ほしい情報がもらえなかった	12. 地震や雨のことを考えて眠れない・夜に起きる
13. 特になし	14. 答えたくない
15. その他（ ）	

Q25. 地震と大雨が起きて、今、困っていることは何ですか。（〇はいくつでも）

1. 壊れた家の片づけについて	2. あなたや家族の健康・病気・病院について
3. 家を新しく建てたり、支援の制度について／家が壊れた 人の善類や、壊れた家を直すこと、家を直すことについて	4. 地震の後にどこに住むか

5. 水・電気・ガスなどライフラインについて	6. ショッピングや、生活に必要なものについて
7. 食べ物や食事について	8. バスや車など交通について
9. 仕事について	10. 収入など生活に使うお金について
11. 近くに住む人や、逃げた場所での コミュニケーションについて	12. お年寄りや、障害者の生活について
13. 今後の地震や津波など災害への不安 ／どんな準備をすればいいかについて	14. 日本語やコミュニケーションについて
15. 楽に話せる人がいない／一人だと感じる	16. 災害についての情報を どこで・どうやってもらえるか
17. 災害や家をまた建てることなどについて、 誰に相談すればいいかわからない	18. 差別をされていると感じたことがあった／ 感じることもある
19. 宗教・文化・習慣が違って困ったことがあった	20. 子どもの学校について
21. 特になし	22. 答えたくない
23. その他（ ）	

Q26. いつもの生活や災害について、不安なこと、困っていること、サポートしてほしいことについて、

何でも書いてください。

ご協力ありがとうございました。



みなさんが書いた情報は、輪島市の外国人をサポートするために使います。

情報を使ってもよい人は、あなたの情報を教えてください。

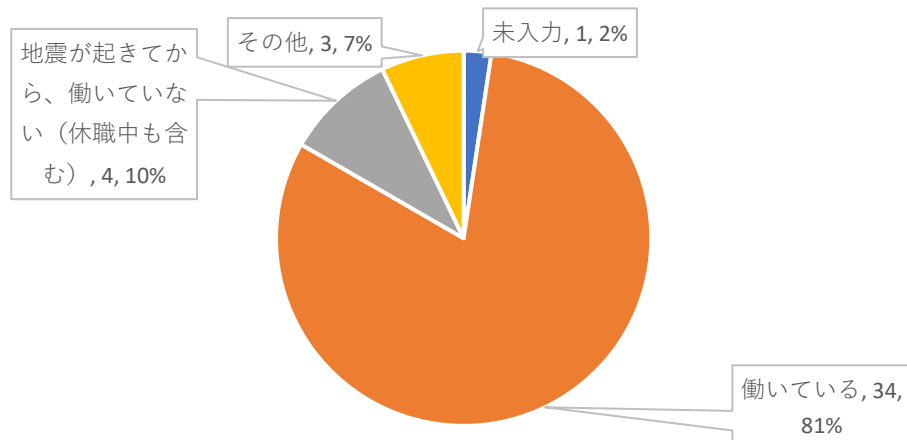
名前	
住所（住んでいるところ）	
電話・メールアドレス	
イベントやサポートの情報を送ってもいいですか？	<input type="checkbox"/> 送ってもいい <input type="checkbox"/> 送らないでほしい

アンケートに答えていただきありがとうございました。



アンケート結果（就労）

就労の有無（n=42、人）



就労については、34人が「働いている」と回答。一方で、「地震が来てから働いていない（休職中も含む）」も4人おり（全員が日本人配偶者）、就労支援も求められていることがわかる。

職種では、食品加工・製造業が多く、介護・福祉・医療や漁業に従事する人もいた。

在留資格×職種 (n=39)	1 技能実習	3 特定技能	4 技術・人文・国際業務	6 永住者	7 日本人の配偶者等	8 永住者の配偶者等	12 その他	
職種	14	2	3	1	6	1	2	39
12 その他	5			2	3	1	1	12
11 答えたくない					1			1
9 教育				1				1
7 建設業	1	2	3					6
6 食品加工、製造業	6			2				8
5 介護・福祉・医療				2	1		1	4
4 観光業・宿泊業				1	1			2
3 飲食店・小売店				1				1
2 農業・林業				2				2
1 漁業	2							2



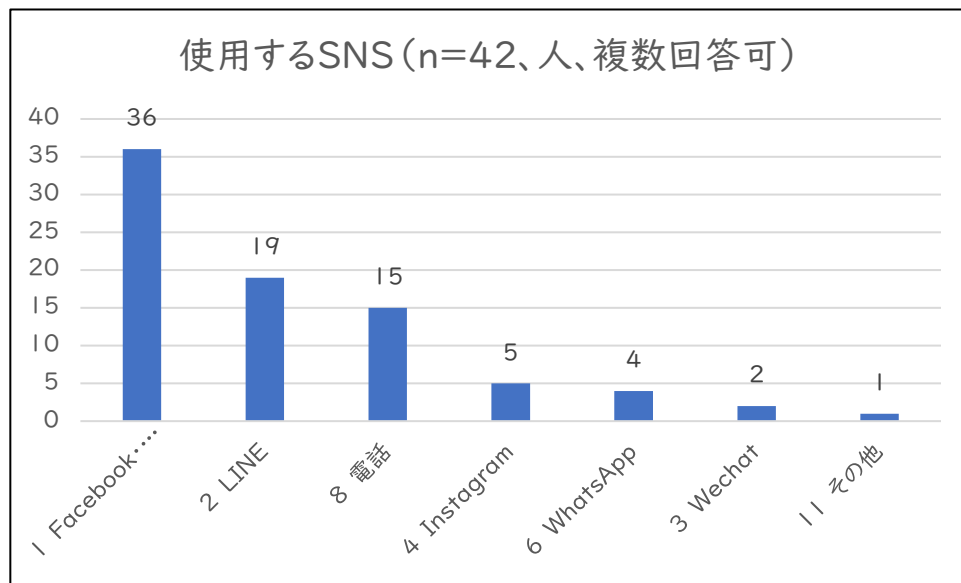
アンケート結果（日本語レベル）

日本語レベル× 在留資格×在住歴 (n=42、人)		1年より少ない	1～3年	3～5年	5～10年	11～20年	20年より多い	
日本語レベル	在留資格	5	9	1	6	14	7	42
その他	2 12 その他			1				1
	7 日本人の配偶者等						1	1
N1	3 9 定住者					1		1
	6 永住者					2		2
N2	4 7 日本人の配偶者等				1			1
	6 永住者					1	1	2
	4 技術・人文・国際業務		1					1
N3	12 12 その他						1	1
	8 永住者の配偶者等					1		1
	7 日本人の配偶者等					2		2
	6 永住者					5	1	6
	4 技術・人文・国際業務	1						1
N4	3 特定技能				1			1
	9 7 日本人の配偶者等				1	1		2
	6 永住者					1	1	2
	3 特定技能				1			1
N5	1 技能実習	1	2		1			4
	10 7 日本人の配偶者等						1	1
	6 永住者						1	1
	4 技術・人文・国際業務				1			1
未入力	1 技能実習	2	5					7
	2 1 技能実習	1	1					2

日本語レベルについては、N1レベルは3人。N5、N4が45%を占めている。在住歴が10年超でもN5と回答した方もいた。また、技能実習生はN5かN4にとどまっており、日本語力はあまり高くないことが分かった。市内には日本語教室が一つある。日本語教育のサポートが必要と考えられる。

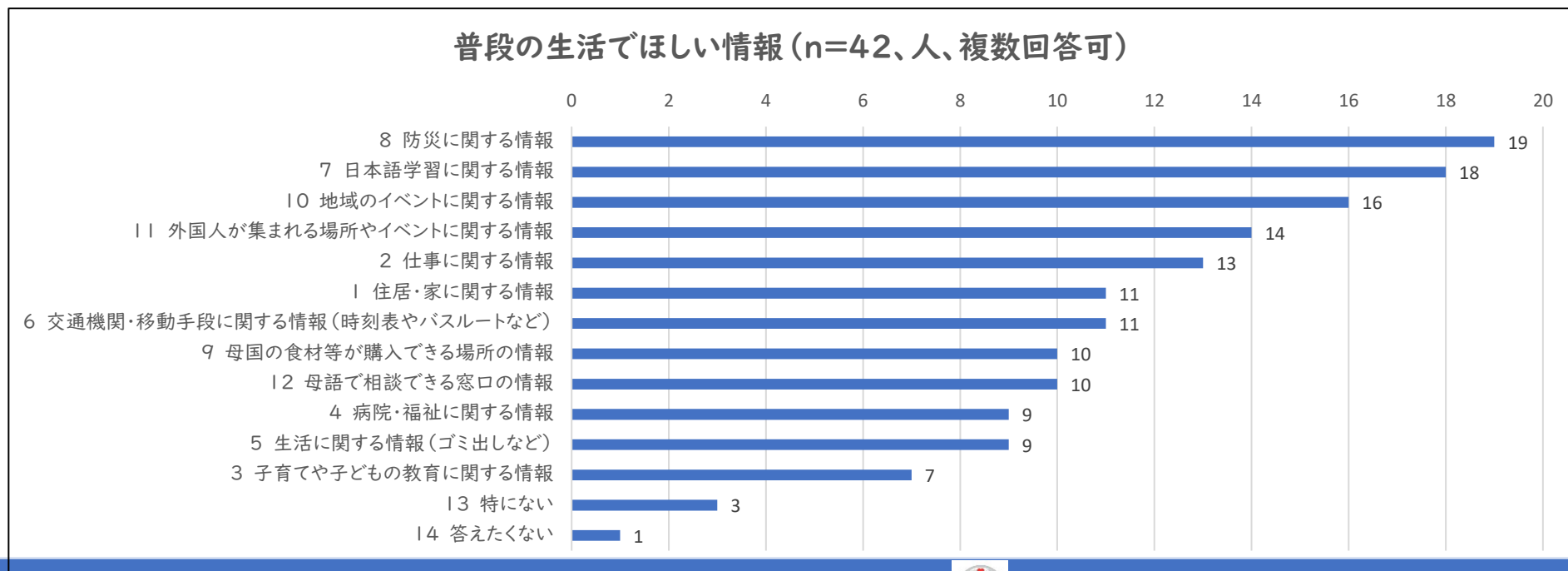


アンケート結果（普段の生活）



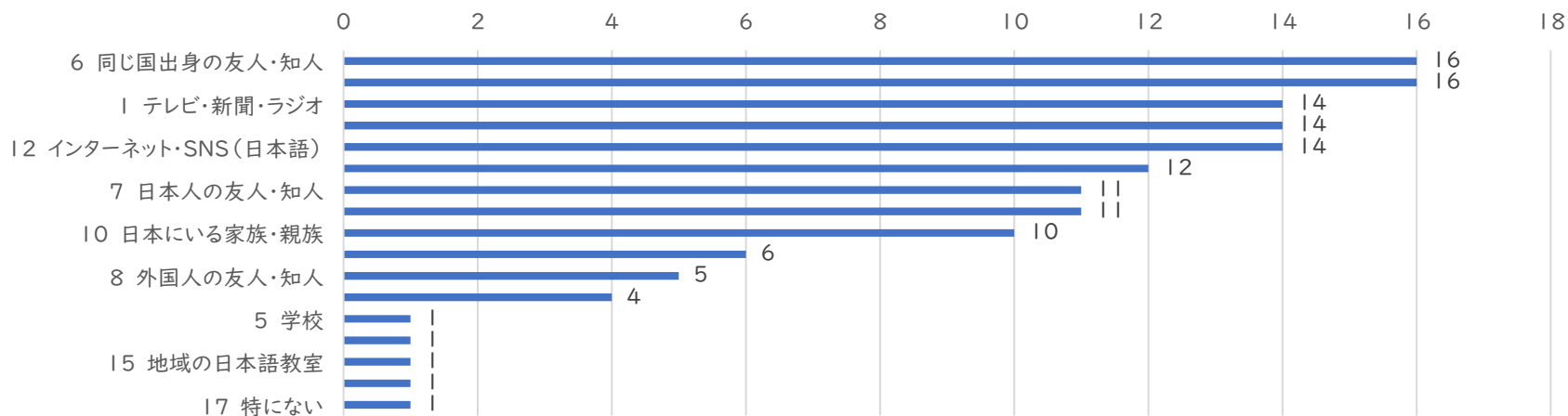
友人・知人・家族・職場などと連絡を取るツールとしては、大多数が「Facebook・Facebook Messenger」と回答。LINEや電話と回答する方もいた。

また、日常生活でほしい情報としては、「防災に関する情報」と「日本語学習に関する情報」「地域のイベントに関する情報」「外国人が集まれる場所やイベントに関する情報」が人気だった。

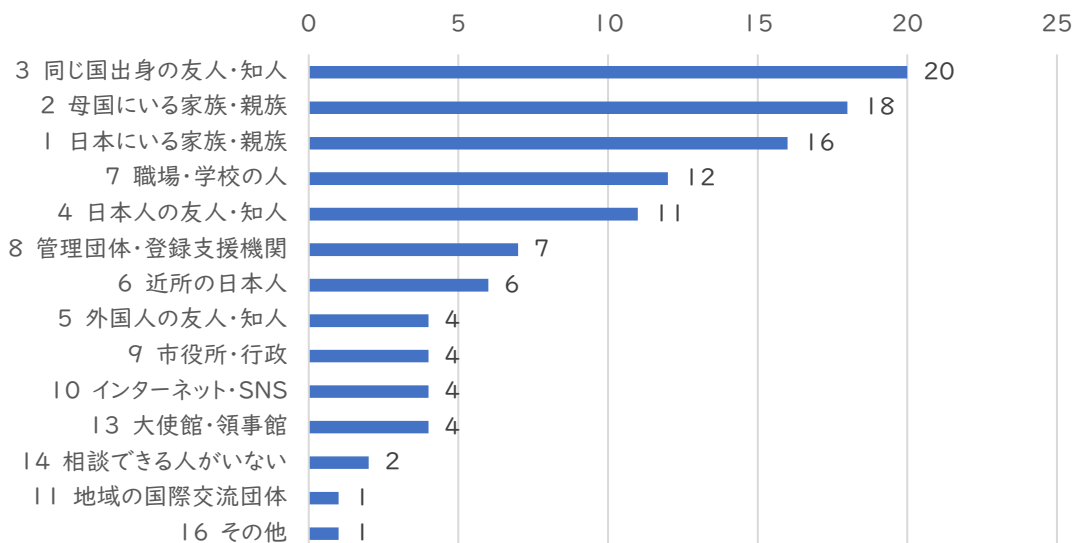


アンケート結果（普段の生活）

輪島生活の情報源（n=42、人、複数回答可）



困ったときの相談相手（n=42、人、複数回答可）

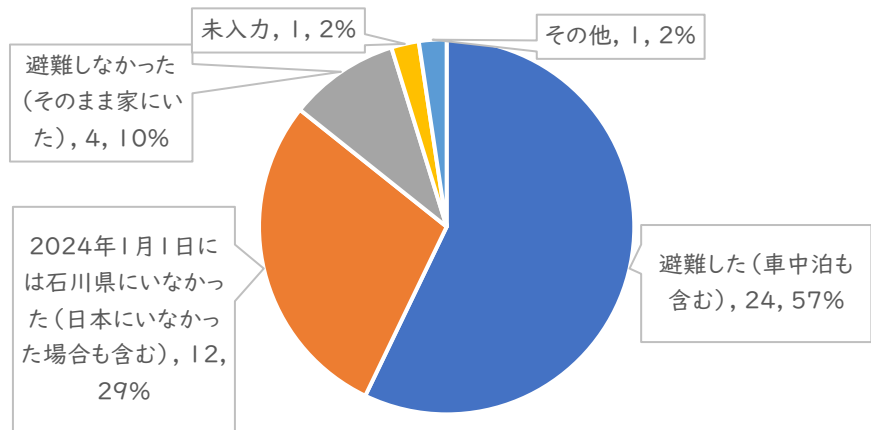


生活情報を得る情報源としては、「同じ国出身の友人・知人」が圧倒的に多かった。また、困ったことがあった際の相談相手としても「同じ国出身の友人・知人」が多かったことから、情報拡散のためにも、国ごとのコミュニティに
いかにアプローチできるかが課題であると考えられる。相談相手がないと答えた2人の拾い上げも必要である。

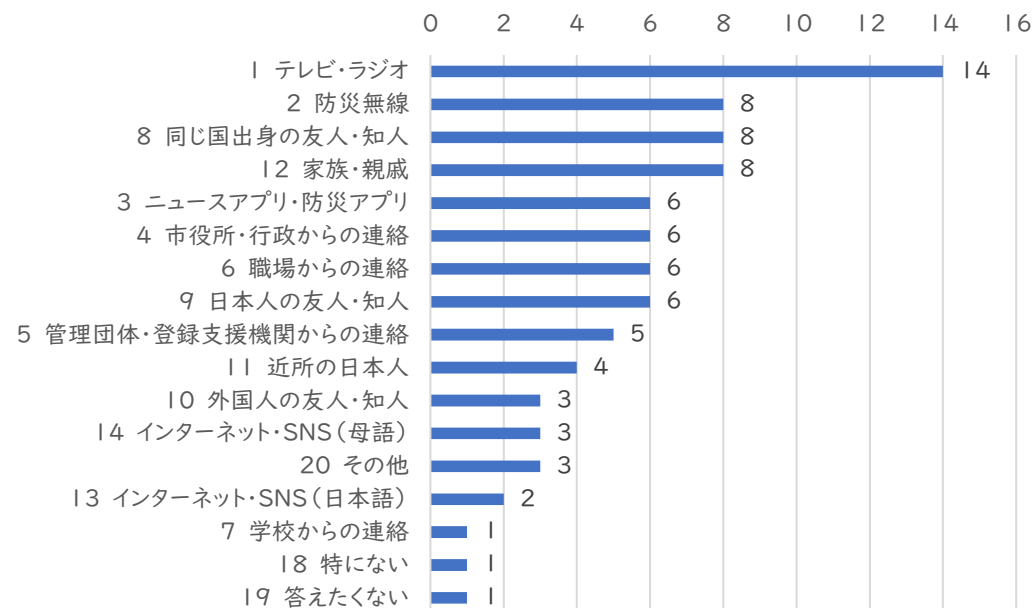


アンケート結果(地震)

地震時の避難の有無 (n=42、人)



地震時の情報源 (n=42、人、複数回答可)



地震時の避難行動については、57%が「避難した」と回答。地震情報を得る情報源としては、「テレビ・ラジオ」が最も多く、「防災無線」「同じ国出身の友人・知人」「家族・親戚」が続いた。「誰と避難したか」の自由記述では

8月、9月までは車で生活していた。今は仮設にいる(フィリピン人永住者)。

職場の人と公民館へ行った(カンボジア人技能実習生)。

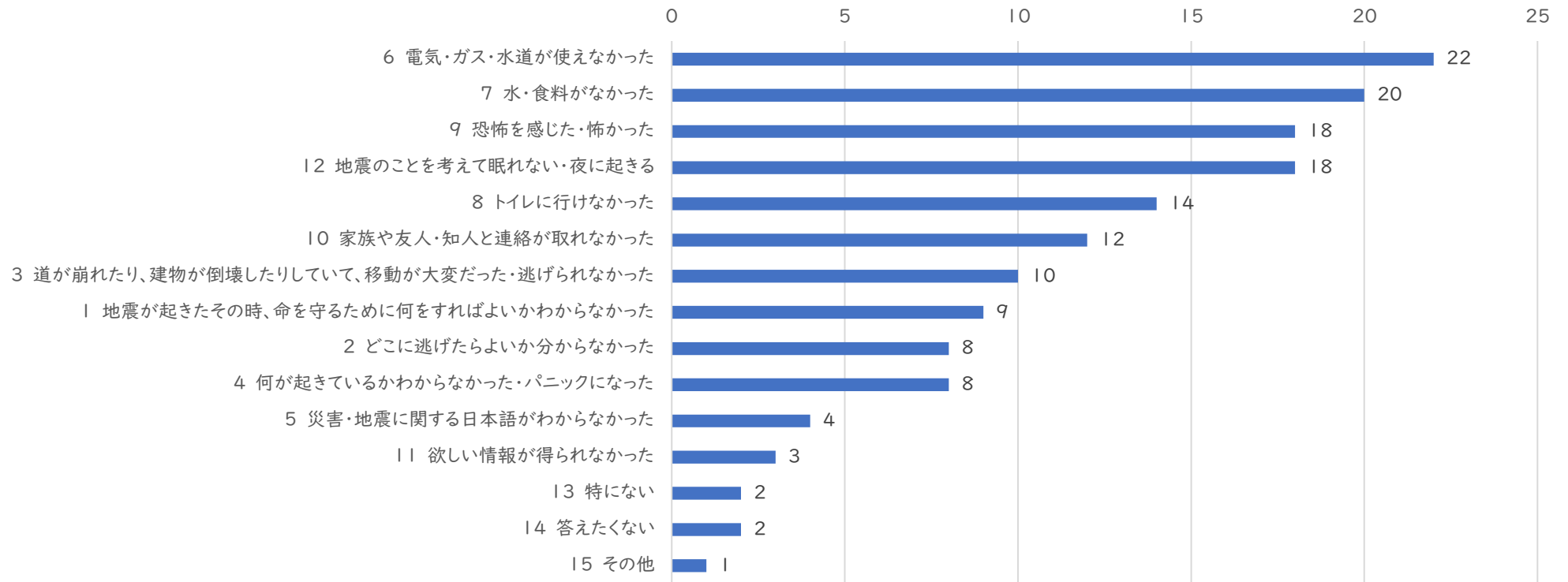
私たちは息子の学校で寝ました(フィリピン人永住者)。

などの声があった。



アンケート結果（地震）

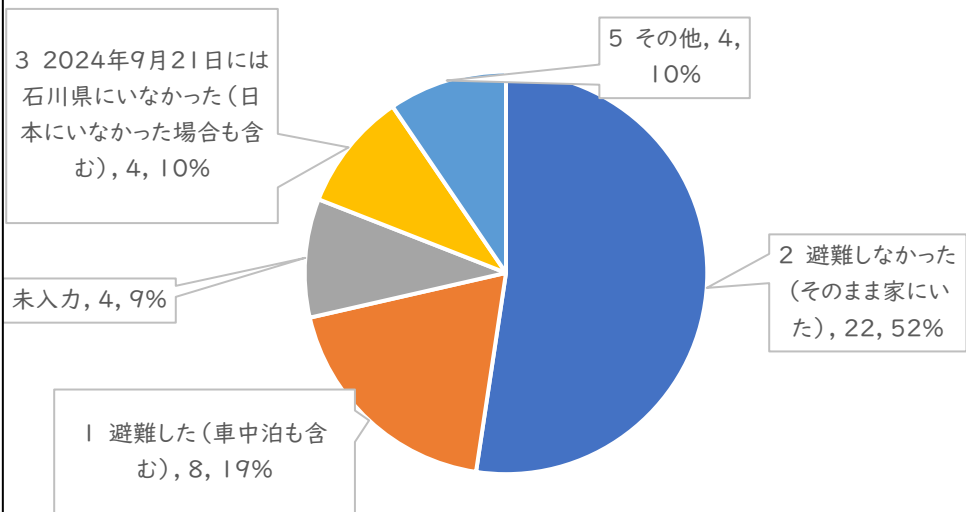
地震時のお困りごと（n=42、人、複数回答可）



地震時のお困りごととしては、「電気・ガス・水道が使えなかった」が最も多かった。ついて「水・食料がなかった」が多かった。今回の回答者には、ムスリムなど宗教上の食の配慮が必要な方はいなかったと思われるが、外国人向けの物資の備蓄なども求められる。また、「恐怖を感じた・怖かった」「地震のことを考えて眠れない。夜に起きる」も18人ずつが回答しており、メンタルケアの必要性が考えられる。

アンケート結果（水害）

豪雨時の避難の有無（n=42、人）



家族と一緒に家にいるのは私だけでした。道がなかったので、仕事からすぐに家に帰ることができませんでした。（フィリピン人永住者）

仕事に行ったけどストップで、近く（穴水）の友達のところへ行った。（フィリピン人永住者の配偶者等）

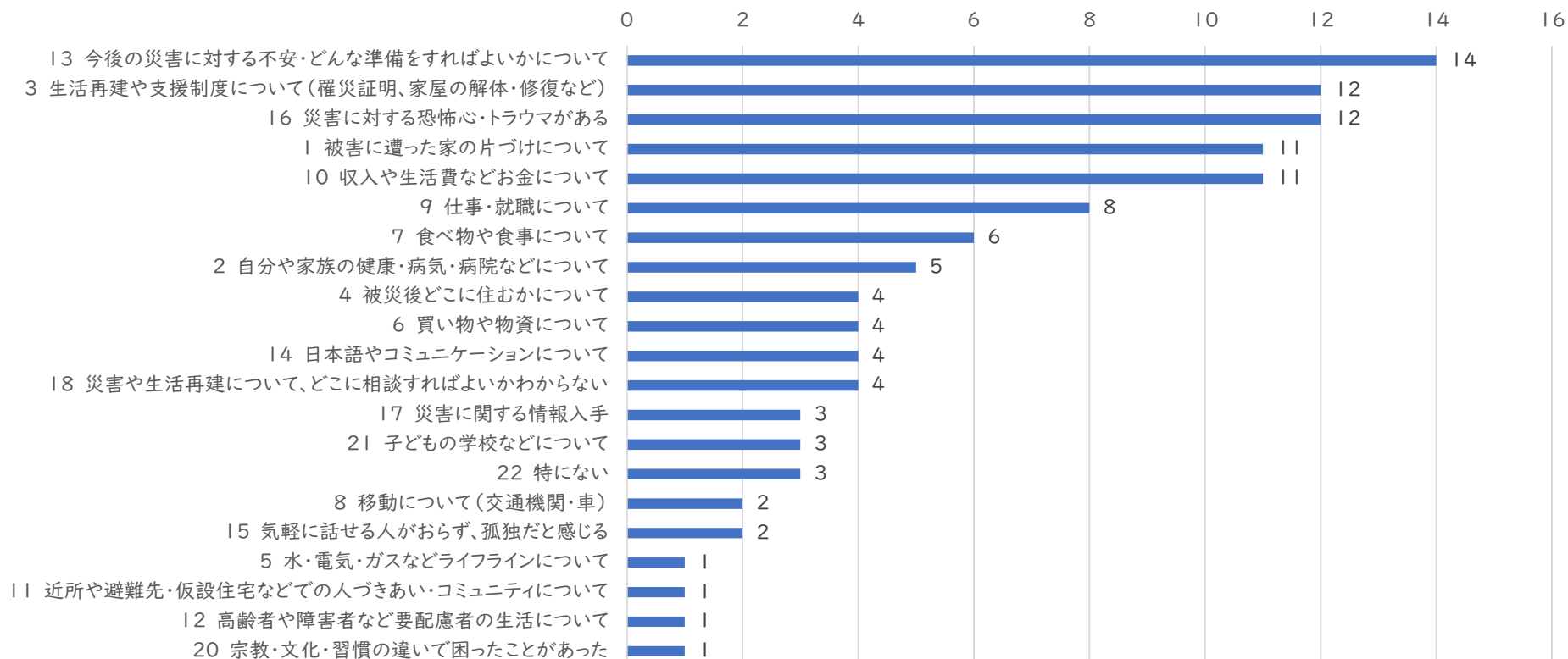
水害時の避難行動としては、半数が「避難しなかった」と回答。8人が避難した。雨脚が強まったのが9/21午前中だったこともあり、仕事場からすぐに帰られなかった方もいた。中には、今回の水害で浸水した宅田仮設に入居していた方もいた。仮設住宅が浸水するという前代未聞の災害で、命からがら避難したなどの声も寄せられた。

宅田仮設からワイプラザに一人で逃げたが、ワイプラが閉まるので、輪島病院へ避難。そこで、消防のボートで救助された夫と合流した。少し水が引いたので車を取りに行き（車は水が当たって、煙が出たが、今も走れている。もともと軽トラは地震で壊れ、中古車）、ふれあい健康センターへと逃げた。ふれ健も水が入ったので、輪島中へ避難した。（フィリピン人永住者）



アンケート結果（災害全般）

地震、豪雨で現在も困っていること（n=42、人、複数回答可）



二重被災という未曾有の災害を受けて、現在でも困っていることとしては、「今後の災害に対する不安・どんな準備をすればよいかについて」「災害に対する恐怖心・トラウマがある」などが多く、防災情報の発信や防災訓練、メンタルケアなどが必要だと考えられる。また、住宅再建や支援制度、家の片づけなどに関するお困りごともあり、行政や技術系ボランティア、建築士など専門家へのつながりも必要だと考えられる。



アンケート結果（不安なことや困っていること、サポートが必要なことの自由記述）

米、果物、水がほしい。服も（カンボジア人技能実習生）

私たちは災害に対応することができます。決してあきらめません（フィリピン人永住者）

収入に関して言えば、顧客が遠方に移されたり、別の場所に移されたりしたため、減少しています。収入が支出を上回ることはなくなりました。私たちには大学と高校の学生がいます。私たちが住んでいた仮設に2年間過ごしたあと、家が火事になり、私たちはちょうど、イミンドル(?)で借りていたところです。それが私たちの未来の場所です。（フィリピン人永住者）

仕事を見つけない（フィリピン人日本人配偶者）

私にはもう家がありません。地震で被害を受け、政府の援助を受けて、仮設で息子と暮らしています。（フィリピン人永住者）

今のところは大丈夫。福祉の仕事が止まっているので、続けるか心配。（フィリピン人永住者）

家の近くで仕事探したい。息子（小4）のことも気になることがある。（フィリピン人永住者の配偶者等）



アンケートのニーズからつないだ支援①



水害に遭い、玄関が流された日本人配偶者宅に、AAR難民を助ける会さんを通じて、技術系ボランティアの風組関東さんに入ってもらい、仮の玄関を設置。「寒くなる前に助かる」と感謝の言葉があった。

アンケートのニーズからつないだ支援②



日本人の家族が病気で就労できず、金銭的な不安を抱えた外国人住民（永住者ビザ）から「中規模半壊の家を建て直すお金がないが、下の子ども（中学3年生）が高校を卒業するまで住み続けたい。何とか補修をしたい」と相談があり、こちらもAARさんと風組関東さんに入ってもらい、まずは隙間風が入り込んでいたお風呂周辺の壁をコンパネで補修してもらった。「業者に頼んだらどれだけのお金がかかるか不安だった。本当にこんな支援を探していた」と涙ながらに喜んでくれた。

アンケートのニーズからつないだ支援③



仮設住宅で暮らすアジア出身の技能実習生より「自転車で買い物に行く際に寒くなってきたが、冬服が高くて買えない」と相談があり、物資支援としてコートをお届けした。「とても暖かいです」と喜んでくれた。

アンケートのニーズから始めた支援①



相談相手、情報源で「同じ国出身の友人・知人」が多かったことから、料理を通じて、同じ国のコミュニティの方々が集まれる居場所づくりを進める。

アンケートのニーズから始めた支援②



Facebook利用者が多かったことから、「Noto Multilanguage Support/のと多言語サポート」のページを開設。生活情報や災害情報の発信をしていく。

アンケートのニーズから始めた支援③



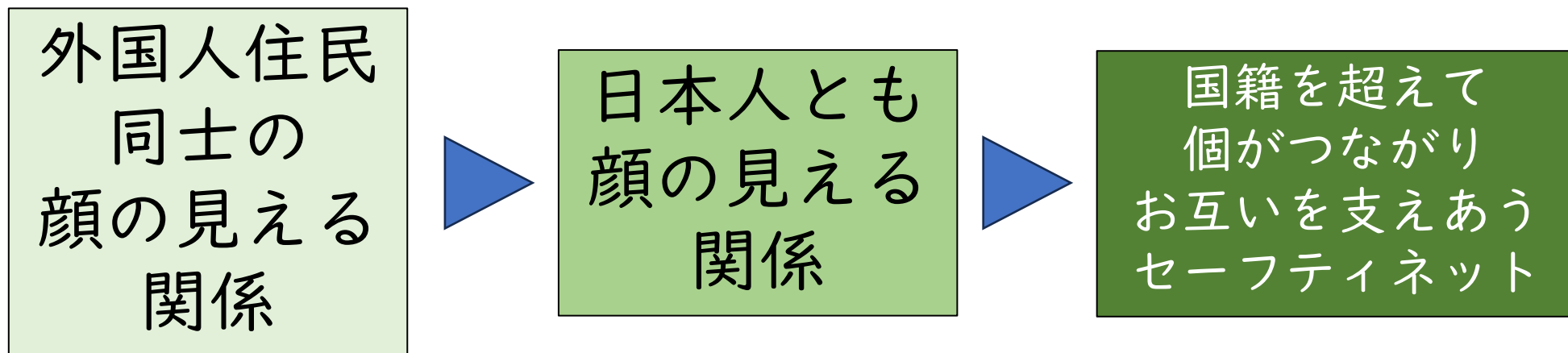
外国人が集まれる場所やイベント、母国の食材を買うなどのニーズも高かったことから、金沢へバスツアーを実施。輪島ではスーパーでアジア食材を買えず、金沢まで片道約100km。バスも往復で5000円弱。

アンケートのニーズから始めた支援④



着物を持ってきていただいたので、茶道、華道関係者にお声掛けをし、日本文化体験イベントに。珠洲市、能登町からも参加し、ベトナム、カンボジア、インドネシア、フィリピン、アメリカの参加者。外国人の横のつながりづくりとともに、被災した茶道関係者も「久しぶりにイベントができた」とエンパワメントの機会に。

能登の復興へ次なる展開



「生活者」としての外国人住民を受け入れるインフラが整い、
復興の担い手としての外国人材と支えあう能登

地域づくり

「能登を選んで良かった」と
思ってもらうインフラ整備

相談体制

外国人相談窓口の開設

日本語教育

地域日本語教室とのマッチング
日本語学校誘致

情報提供

災害情報、生活情報をアウト
リーチで提供

のと里山里海
多文化共生
センター(仮)

のと
広域

モデル化

輪島

外国人住民の困りごとを
キャッチするネットワーク整備

外国人住民

顔の見える関係

民生委員

老人クラブ

子ども/子育て世代

行政

企業(士業)

社協が
つながる
強み

復興に向けて国籍を超えて
支えあう能登へ

官民による
復興の担い手となる
外国人材受け入れに向けた
ビジョンを共有する
プラットフォーム
(共創の未来のと)

マクロ的視点

外国人材を受け入れるための
インフラづくり
=外国人材と地域をつなぐ人材の育成
(多文化ケアマネジャー)

メゾ視点

外国人と交流することによる
地域のエンパワメント
(コミュニティ再生お助け隊)

ミクロ的
視点



多文化人材の力で、能登の復興を

